

1. 研究目的

祖母は写真を趣味としている。外出先で祖母が使いずらそうに写真を撮っている姿を見て、もっと高齢者にとって使いやすいカメラを提案したいと考えた。家族や友人の顔、外出先で撮った写真を後から見返すことは高齢者共通の楽しみである。現在、老夫婦や一人暮らしの高齢者が増えている中、これからの高齢化社会を考えると、お年寄りも日々を楽しむことが大切だ。

2. 調査と分析

■現在市場にある商品の問題点

- ・持ちづらい
小さすぎて指の置き場が少なく、画面やレンズに触れたり、ボタンを誤操作してしまう。
- ・操作がやりづらい
ボタンが多く、フラッシュなど本当に必要な機能のボタンがわかりにくく使いづらい。
- ・画面が小さい
画面が小さいために見づらく、写真に現像した時のイメージがしづらい。

■電気店へ行き、祖母に様々なデジタルカメラを使用してもらったこと

- ・重量が軽すぎて安定しない
軽いと手が安定せず、手振れの原因となる。また、持ち易さやカメラを持つ腕の位置により感じる重量が異なる。
- ・シャッターボタンの押し感が少ない
ボタンを押した感覚が薄く、しかも押してから撮れるまでに時間差が出るため、不安になる。

3. コンセプトの立案

- 「コンパクトなのに使い易い」
- ・本格的なデジタルカメラ相当の大きさ
 - ・大きな画面で見やすく
 - ・持ちやすく、操作しやすい

4. デザイン展開

■カメラ本体のデザイン提案

調査結果から、手の持ち場をしっかりとさせるために両手で握れるフォルムにしようと考えた。しかしこれにより全体的に大きくなってしまい、持ち運びに不便である。そこで画面を収納出来るよ

う開閉式にした。さらに閉じている時に画面中心部をサブディスプレイとして露出させることで、開閉幅を少なくし、さらにコンパクトに持ち運べるようにした。重さは220gと従来のデジタルカメラよりも少し重く、安定するように。

■画面のデザイン提案

画面は現在市場にあるデジタルカメラの中で最大の大きさで、縦45mm×横60mmに。

■ボタンのデザイン展開

ボタンはフィルムカメラと同様「シャッター」「フラッシュ」「ズーム」の3つを指が自然と動かせる位置に配置した。「シャッター」は押し幅を増やし、人差し指でしっかり認識出来るように。「フラッシュ」は誤操作を防ぐため円形に少し窪ませ、なおかつ大きく右手の親指にフィットするようにした。「ズーム」は左手の親指の動きに合わせ、スムーズに使えるように。本当に必要な機能にしばった快適な操作ボタンにした。

5. 完成図



6. 結論

実際に祖母に持ってもらい、握りが出来たことで持ち易く、安心して写真が撮れるという意見をもらえた。しかし、人によって持ち方や手の大きさが異なるため、握りが小さく、指が少し定位置からはみ出してしまうことがあった。このことから、他の人のデータももっと取り入れデザインに反映させていけば、さらに快適なものをつくれると感じた。

7. 参考文献

■各社デジタルカメラの製品カタログ